


たんぽぽ



NO. 52

H 3年10月1日
一発行一
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

自閉症を知る

理事長 田中 稔

眼の見えない人が、物につまづいている時『どうしてつまづいたか』と言って叱ったり、文句を言う人はいませんか。この人は見えないのだという他者に分かる状況があるからです。

自閉症児者が示す奇妙な言動は他者にとって納得出来る説明や事実が無いという理由で、その他者のそれまでの浅い知識や経験や社会通念等で判断し誤った処遇を受けて来ました。(断っておきますが見る、聴くという事も分かっていない事の方が多いのです。)

今年5月東京書籍出版から『自閉症の謎を解き明かす』という本が出ました。ロンドン大学の女医さんでウタ、フリスという人の書

いた物の日本語訳です。

ウタ博士は25年余りにわたって自閉症を研究して来られた方のようです。自閉症児者にかかわっている人の中には、自閉症児者に見られる部分的な症状、所見、データから自閉症が分かったかのようには偉い専門家になったかのように自分を誤解している人がいます。

自閉症という障害はもともと少数派でそれにかかわっている人も多くありません。その上、その人のお山の中でしか通用しないお山の大将が多いのは困った事です。その様な人の言動は愚かで危険である事をこの本は教えてくれます。又、この本は自閉症の障害としての広がりや深さといったものを丹念に書いています。従って、ある人の言動が自閉症の広がりや深さ

の中でどのレベルでどの位置にあるかを教えてくれる現時点での立体図の様な役目が果たせる本です。自閉症を研究し理解するという事は、とりもなおさず人間が人として発達する為にはいかに広く深い事柄が関係しているかを知る事の様です。ヨーロッパやアメリカでの発達障害への取り組みの素晴らしさは私達に希望を与えてくれます。

外国でこの本は『この20年間に書かれた自閉症に関する最良の一冊』という評価を得ています。

私も長く自分の机の上に残る本の一つと思えます。



療育シリーズ

失便

園長 土井尚典

一年以上も前の話になるが、「園長！Aくんがウンチしているよ！」と理事長の声。行ってみるとAくんがパンツの中をたわわに膨らませている。足元にはもれでたウンチが踏まれて床にベツトリとついていた。手を引いて連れていこうとして、手を見ると手の平にもベツトリついている。Aくんは最近手の平を合わせて手をつないでくれるようになった。今までは私の手首や腕を握っていた。私が手首をつかもうならば必ず手首をつかみ直して来る。手首をつかまえて洗い場に連れて行って洗ってやりたいが、手首をつかめばつかみ直してくるはずだ。意を決して手と手をつないだ。軟らかめのウンチでつないだ手が滑る。もう一方の手を見ると、指の間からウンチが見えている。これはつかまれたら大

変と声かけを切らさず洗い場に連れて行った。

そのAくんが先日、玄関でビツグ便をした。最近トイレでちゃうとするので有り難いネー。と、うわさしていた矢先の事である。指導員が見付けて、Aくんを洗い場に連れて行った。他の指導員と私は他の園生がビツグ便を踏まないうように見張りをしながら後始末にかかった。ビツグ便の本体は引き戸のレールの上にある。やや軟らかめのウンチは牛のウンチのように落ちていた。園生は通るしウンチはしつこく落ちないし、私と指導員とはすっかり臭い仲になってしまった。

しかし、今回のAくんには前回



と違っていたことが二つあった。一つはトイレに行こうとして間に合わず、パンツを下げてウンチをしたことです。もう一つは手をつながないでも声かけで洗い場について来れたことです。本人はウンチを漏らせば叱られると思っています。しかし、そう行った状況下でも指示を聞いてついて来れたことは素晴らしい事だと思います。

Aくんの便失禁(おもらし)は帰宅して、園に戻って来た翌日に起こる傾向があります。食べ過ぎやおなかがゆるくなり、おもらしをしてしまう訳です。久し振りに帰宅した我が子に御馳走をおなか一杯食べさせたい気持ちは、本当にそうだと思います。しかし、園に帰って便が軟らかい為につっかくトイレでできる習慣が失敗してしまうのは勿体ないことです。三気の里で2年3年と生活して来ますと規則正しい食生活の影響で胃袋も今までのように大きくはありません。今までの調子で食べさせ

ますとおなかを壊してしまいます。また、園生もそんなに食べたがらないはずで。食べないからおかしいと思つて好きなものばかりあげてしまい結果として食べ過ぎてしまうなどの失敗をしないようにお願いします。

まーちゃんの入院

木下昭二

8月22日昼すぎより腹痛を訴え、一瞬間の中をイヤなものによぎつたが、トイレに促すと大量の排便が確認できたため胸をなでおろすおもいであった。が、その後も本人の「おなかが痛い」はおさまらず夜間になつて嘔吐が続くため深夜日赤に通院してもらうが、はつきりした原因はわからず帰園して様子を見る。朝になつても症状は改善せず理事長に指示を仰ぎ、再度日赤へ通院。腸閉塞との診断で即入院。点滴、造影剤等で加療するも通腸の決め手とはならず園長の決断で入院4日目、鼻から管を

通す事とする。本人が管を引き抜いてしまうような事になると執刃しか残された道はないとのドクタ―の所見だったので（最後まで出来ることなら手術はしたくないと言いつづけられていたが・・・）、多くの人の手を借りて手術をせざるに通腸することが出来ました。お手伝い戴いたお母さん方も我が子に置き換えて考えられ積極的に御協力して下さい。まーちゃんが腸閉塞にならない事を願いつつも、これといった予防法もないとのドクターの言葉を、逆に発奮材料にしてこれからも気長に付き合つていこうと覚悟を決めている今日この頃です。



息子の入院

村上満寿子

夏休みを終えた数日後、息子が腸閉塞を起こしました、入院です。三年前の大変な思いが頭をよぎり神様も意地悪なものだと病院へ急ぐ。嘔吐を繰り返す方紀を目前にして何とかしてやらねばと焦るばかりです。園長先生がご出張を切り上げ帰園、医師が躊躇なさつていた鼻から腸まで管を通すことに強引に決定、これが出来ない手術以外なのです。学園の先生、ボランティアの方、お母様方迄招集。24時間体制で見て頂き五日間、やっと通つたのです。皆様のお力を得て最良の治療が出来ました。理事長先生のご忠告は憔悴しきつた私共にショックでしたが、この先、病弱な息子故に皆様のご好意だけに頼らず何とか手だてをと考えます。小康を得て本日、園へ戻りました。皆様へ心から御礼申し上げます。

お知らせ

退職

長友利恵

「〇〇くん、はいご飯とっていいよ。」「〇〇ちゃん、おいしかったあ？」と毎日みんなの食事を準備していましたが、8月いっぱい退職することになりました。

ここ“三気の里”は私の出発点であり、嬉しかったこと、楽しかったこと、考えさせられたこと、いろいろありました。辛かったこともありましたが、園生の笑顔を見ていると、辛かったことも忘れ、一緒にニコニコと笑顔になったこともありました。

三気の里で勉強したことを生かして、福岡に行っても、栄養士として頑張っていきたいと思えます。二年とちょっとでしたが、いろいろとお世話になりました。

「〇〇くん、〇〇さん、作業を頑張って三気の里のおいしいご飯を食べてくださいね。」

退職

大塚浮子

此度、9月30日をもちまして、

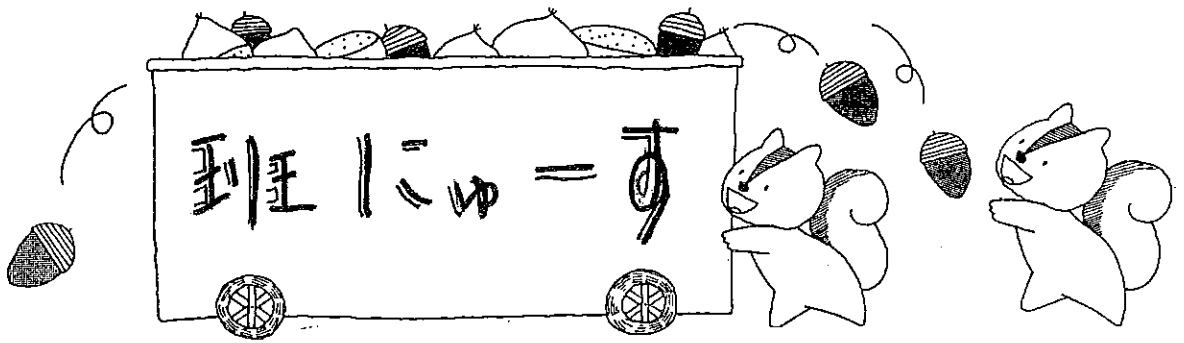
三気の里を退職することになりました。三気の里での私の課題は“叱ること”でした。叱ったことも、叱られたことも余りない私は・・・、良い子だったという意味では決してありません・・・どこで叱るのか？どういうふうに叱るのか？叱って懲りるのか？これでいいのか？・・・いくら私が考えても悩んでも、確実に事件を起こしてくれる園生に“叱るのも愛情表現よ”と、まがりなりに叱ってみました。誉めてみたり、時には、反対に慰められたりと、いろいろな事を経験させてもらったナアと三気の里での青春を今、一人懐古しています。又、世間知らずの私に協力して下さったご父兄の方々、数々の私のドジを一蓮托生、切磋琢磨で見守ってくれたスタッフに心から御礼を言います。ありがとうございます。そして、また、いつか、どこかで

デンタル通信

森隆子

高齢化社会となっている現在、熊本でも、やっと在宅診療が始まりました。障害者のための口腔セクターでの治療も十年とかで、まだまだこれからといった所でしょ。うね。園でのブラッシング指導も、口の中の事だけでなく園生の皆さんからも学ぶ事の多い意味深い一年となりました。ブラッシングにより、指導員の方の協力もあって歯肉の状態は改善されています。しかし自閉症さんの一般歯科での治療は協力性にかけるため思うようにはかどらず、反面虫歯は着実に進行しているというのが現状です。これらの問題に対して、私達は、もっと自閉症及び障害者の方に関心をもち、お母さん達も歯の大切さと治療に対する理解と協力をもっていけたらというのが、私の切実な想いです。





1 班 棚からぼたもち

もうすっかり秋ですねえ、吹く風や風の臭いが秋を感じさせてくれます。さて1班のメンバーですが、夏の盛りにはあまり元気がなかったのですが秋になり食欲も旺盛になってやっと本領発揮の季節がやってきました。そこで、手初めに畑の中の人の背丈程もある草取りをすることになりました。草取りならまかせての辰治さん・宣陽さんの熟年パワーのおかげで草取りもスムーズ、大きな草を引っこ抜くのは聡士くんと紅一点久美ちゃん、小さい草なら任せての肇くん・博くんのコンビ、草取りの早わざおみせしますの勝ちゃん、終わった後は全身土だらけの奮闘ぶりです。片付け上手の忠ちゃん、黙々頑張る憲ちゃん、草がなくなった頃、ふと畑に目を移すとプチトマトの鈴なり、ムフフ・・・!! と目を細めたのは私だけでしょうか?!

それから皆のお腹がプチトマトでふくれたのはいうまでもありません。

いやぁ～秋はこれがあるから楽しみなですよね。

本当は晴れが好きな雨女 伊石

2 班 食欲の秋

食欲の秋ですねー。2班では、河内町に、ぶどうと梨狩りに行きました。

文ちゃんとみっちゃんは、ひたすら甘～いぶどうのみを、他のお客さんからもらったりしてパクパク食べていました。果物の嫌いな英くんは、正座をして行儀よく食べていました。几帳面な泰ちゃんは、梨を洗ってからナイフで切ったものを食べていました。雄一くん、建ちゃん、英輔くんとあっこちゃんは、こちらの願いどうりぶどうも梨もおいしそうにたくさん食べくれました。浩ちゃんと俊ちゃんは、厨房さんが作ってくれたおにぎりの方がおいしいよと言わんばかりにおにぎりを食べると、ぶどうと梨は少ししか食べませんでした。

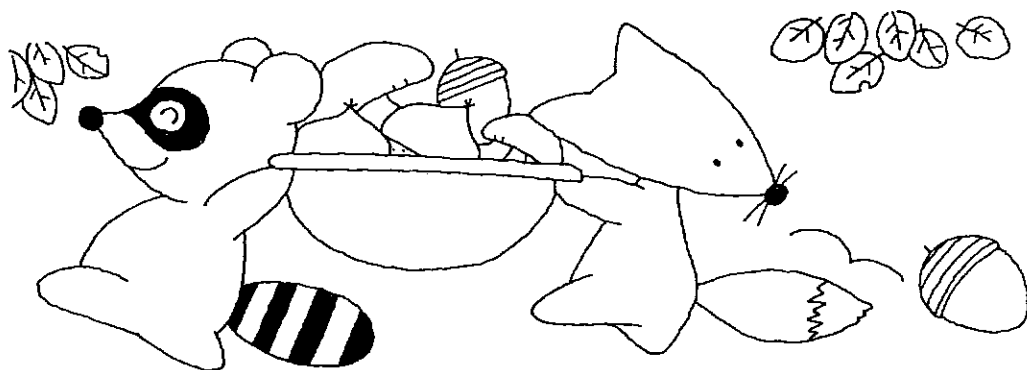
さて、欲張りな職員はというと、お金を払った分以上に食べようとはりきって、「もう入らん」とか、言いながら食べていました。特に、もうすぐ主婦になる長友さんは、はりきっていました。(やはり、主婦となると心意気が違うのですね。)私も、2班のお母さんになりきって、もっともっと楽しいレクレーションを欲張りに探していこうと思います。

高橋

3 班 ピカピカすのこ

スポーツの秋・読書の秋・そして食欲の秋ですが、3班にとっては“製作の秋”です。まず、のこぎり担当の憲ちゃんが、すのこの板を切り、一章君が板をおさえます。稔君は、すのこの足を切り、武ちゃんが板をおさえます。この2つのテーブルの間を忙しく動き回るのが金尺で線を引く希久ちゃん、大忙しです。職員と一緒に電動カンナをかけるのが哲ちゃん、カンナをかけた材木をすのこにするのが、まこちゃんとやっちゃん。1日に7・8枚も出来てしまいます。出来上がったすのこにペーパーをかけるのが、新ちゃん・順ちゃん・真一郎君・まー君の4人です。簡単そうに見えて実は一番難しいのがこのペーパーがけなのです。力持ちの新ちゃんと時間一杯手を動かし続ける真一郎君のすのこは、ピカピカになります。この2人に追いつこうと頑張っているのが順ちゃんとまー君です。

3班園生12人で協力して作った『すのこ』、押し入れやお風呂場にいかがですか？ “家にも是非！”と思われる方は3班職員までどうぞ……。 今村



4 班 実りの秋

風が心地よく感じる今日この頃、4班の畑にも実りの秋がやってきました。まず、園内の畑のすみのなすとかぼちゃが食べ頃になってきました。西原の畑のさつまいもと大豆も、もうすぐ皆の口に入りそうです。それでは、園内の畑の真ん中には何が植えてあるのと言われそうですが……。畑の真ん中には、半月程前に、キャベツの苗と白菜の種をまき、皆で、「早く芽を出せ白菜の種、出さぬとハサミでちょんぎるぞ！」とばかりに、連日、水まきに精を出しているところです。大根と白菜は、今年の末頃に皆さんに食べていただけるのではないかと思います。さつまいもと大豆は、『たんぼぼ市場』にもうすぐ並びますので、もれなくお買い求め下さい。おいしいですよ！ 橋本

※台風19号により『たんぼぼ市場』は、影も形もなくなりました……。

しばらく休業させて頂きます。お求めの際は三気の里まで!!

食堂営業中

「厨房奮闘記」

「ジリリリリ・・・」

唐突に鳴りだす不安な音。火災報知器の音です。もしもの火災にそなえて月に数回、避難訓練があります。前もって知らせてある時、ない時もあります。火災はこわいものなので、直ちに厨房職員は、作りかけの料理をほうりだし、ガス、電気を消し園生の居室にかけつけます。残っている園生がいなか探してまわります。居室で布団にくるまって起きなかつたり、お風呂上がりなのか薄着一枚で、ウロウロしていたり・・・。ようやく中庭に集合したと思ったら、残っていた園生がヒョッコリ二階から顔をのぞかせたり・・・。先日は夜に火災ベルが鳴り、“火事”と蒼白になり必死にかけまわっている、なんと誤報。しかし夜でもちゃんと出来たのでよかったです。思います。いつ起こるのかわか

らない火災ですが、訓練は是非、夕方時は避けてもらえたらと思うのであります。

金丸



研修報告日

動作法研修

高橋千草

第8回の自閉症児動作法研修に参加させて頂きました。日中の訓練で学ぶこと（自分で体験し感じることも）もたいへん多かったのですが、夜のミーティングで、各参加者の疑問や、現場で困っていることを熱心に話し合ったことが一番印象的でした。施設や養護学校、保育園の先生方が、こんなにも熱心にやっておられるんだなあと感じ、私もやる気がどんどんわいてきました。

私は、毎年三気の里の指導員で担当させて頂いている泰くん（小6）の担当でした。最初は、目も合わせてくれなかったのですが、2・3日もすると、甘えたり、話したりしてくれるようになり嬉しかった。研修が終わっての三気の里の夏祭りにも参加してくれ、中庭と一緒に楽しく踊った時、泰くんと訓練を通して仲良くなれたことを実感しました。

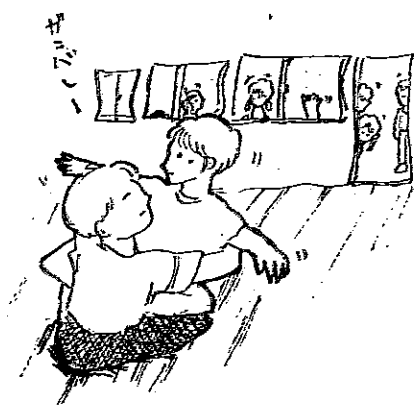
泰くん、めぐちゃん、また遊びにきてね。

動作法

田辺剛政

今回初めて8月17〜24日に開かれた心理療育キャンプに参加しました。これは慢性麻痺児者を対象とし、動作訓練を日課の主体としたキャンプです。当園でも訓練を行っていましたが、本格的に勉強をするのは初めてで基本からいろいろと教えて頂き大変勉強になりました。現在はタテ系動作訓練と

いって立って歩くということを目標としています。しかし彼等にとつてまっすぐに立つということは大変な努力がいるということです。それに対して私達が声かけ等をして彼等の意図通りに身体を動かせるよう援助するという訓練です。訓練の中で一番勉強になったのはやはり彼等との意思の疎通をどうやって計るかということでした。今回のキャンプでは山本先生を始めあゆみの会のお母さん方に大変お世話になりました。有り難うございました。



ぼらんていあ通信

いざ日赤HP

今回の方紀くんの入院では、実にいろいろなボランティアさんにお世話になった。

他の園生のお母様方、学生さん、お勤めの方、一般の主婦の方、その中で特に学生のひとの中では、こういった精神発達遅滞の人を（詳しくは）見るのも聞くのも初めてという方が多く、皆さんの苦勞は、並々ならぬものがあつただろうと思う。

電話口で、あまり名も聞かぬような施設の人間ですというひとが、大声で何かをまくし立てている。深い意味は分からないが、どうやら人命に関することで、急を要し、尚且つ、自分の手助けが必要である。

と、そこまで理解した後の人々の判断は速かった。

「分かった。自分で助けになるのなら・・・。」と言って、場所、

日時等を素早くメモしてくれた。中には、知人を紹介してくれた方もいる。

私は、その時の人々の心遣いや判断を、決して忘れない。余りにも嬉しくて、有り難たくって、涙が零れ落ちそうになった。

入院中も皆さん大変よく尽くして下さった。慣れないながらも点滴の管をじっと見て、時々（管を取ろうと）飛んで来る方紀くんの手や足から管を守ったり、少し回復してきたころの方紀くんの退屈を紛らせられるならと、うたを一緒に歌ってくれたお母さんがおられたり、明日はゼミがあるというのに、仕事が通常どおりあるというのに、真夜中の付き添いを引き受けて下さっていて、方紀くんがぐずって眠らないからといって、交替の時間になっても、「眠ったのを見届けてからでないと、安心して帰ることが出来ない。」と言われ、そのまま眠りつくまでお世話をして下さいました。私が垣間見た

中だけでもそういった皆さんのやさしさが窺われた。

真夜中に付き添いに出るというのもやはり苦労されたらしい。後日聞いた事だが、当日午前三時に付き添いに入ることになっていた大学四年の女性の話で、目覚まし時計を三個、ステレオの予約をひとつ、それでもまだ起きれるかどうか心配で、隣で学習をしていて夜遅くまで起きているはずの弟に、AM二時に起こしてくれるよう頼んで寝る。ところが、いざ二時になってみるとそのどれ一つにも頼る事なく一人で起きてしまったというのだ。今にしてみると笑い話のようだが、いかに緊張して出向かれていたかが分かる。他のボランティアの方も似たような経験をされたのではないかと察することが出来る。

人と人とが傷つけ合い、互いに、または幾人かの人々で、さらに傷を深くえぐって広げあって生きていくのかのようにイメージされる現

代だが、今度の事で、人間の本当のやさしさというのか、人の心の奥底の根っ子の部分ではまだしっかりつながらるものがあって、『いざ、火急の事あらば、』と、駆け出して来てくれる人のほうが多いんだ、という事実には気づいた。「そうなんだよね。」と、誰かに、切実にそう訴えたい気持ちに駆られて、泣き出してしまった。

信

ボランティアありがとう

- 西川 玲子 大田 美保 (8/26)
- 松野 信枝 長野 邦子 長友 重夫
- 平川 憲治 坂本 孝子 坂口 耕一
- 中川 武子 松本 弘 平川トミ子
- 堀尾 賢治 前田 由香 西沢 敏
- 宮崎 晶兆 清田 親子 遠山 一恵
- 岩田 一博 浮辺 智美 中村 友美
- 渡辺 あゆみ 鬼塚 あけみ
- 江上 ひでき 橋本 いつ子
- 外野木 希代子 西村 ミエ子
- 栗山 悦子 松長 ルミ子 (8/27)



28・29・30・31日赤HPボランティア

- 津原 美保 徳丸 春美 城戸 由香
- 池辺 裕一 岩永 洋一 小野 光徳
- 田中 亮 中島 博 安藤 和代
- 宮地 里花 斎藤 智典 友頭 由妃
- 中原 安代 村上 知恵子
- 横田 真由美 池上 ひろえ
- 野中 さつき 松永 さやか (9/22)
- 愛護体育大会ボランティア
- 森 隆子 (ブラッシング指導)
- 指し子指導の先生方
- 遠山 一恵 (園内清掃)
- 坂本 シマコ (散髪)

敬称略



10月の行事予定

1 (火)	17 (木) 2班レク
2 (水)	18 (金)
3 (木) 誕生会	19 (土) シーツ機 療育相談日 作品展示会
4 (金) 3班レク	20 (日)
5 (土) シーツ機 療育相談日	21 (月)
6 (日) 自閉症療育セミナー	22 (火)
7 (月)	23 (水)
8 (火)	24 (木)
9 (水)	25 (金) 大掃除
10 (木) ボランティア学習会	26 (土)
11 (金) 1班レク	27 (日) 運動会
12 (土) 帰宅日 保護者会 草刈作業	28 (月)
13 (日)	29 (火)
14 (月)	30 (水)
15 (火) 防災訓練	31 (木) 4班レク
16 (水)	※帰宅バスは運行致しません!



後援会入会

ありがとうございます

石井暁子 松岡淳子
前田恭男 池永文浩
森木 学 一門恵子

九月三十日付け

※敬称略

◎ 後援会△云だより

「たんぼぼ一九八九年度版」の冊子ができあがりしました。二三号から三四号までを載せています。

東嶋敏子様よりエレクトーンを、田中照見様より松の盆栽を戴きました。ありがとうございます。

編集後記

編集日当日、突然の台風19号に見舞われ、電気も、水道も止まり、編集を途中で中断された私達はパニック。今日、やっと編集ができました。しかし、私の家は未だ電気がつかない！電気よ早くつけ！

みか